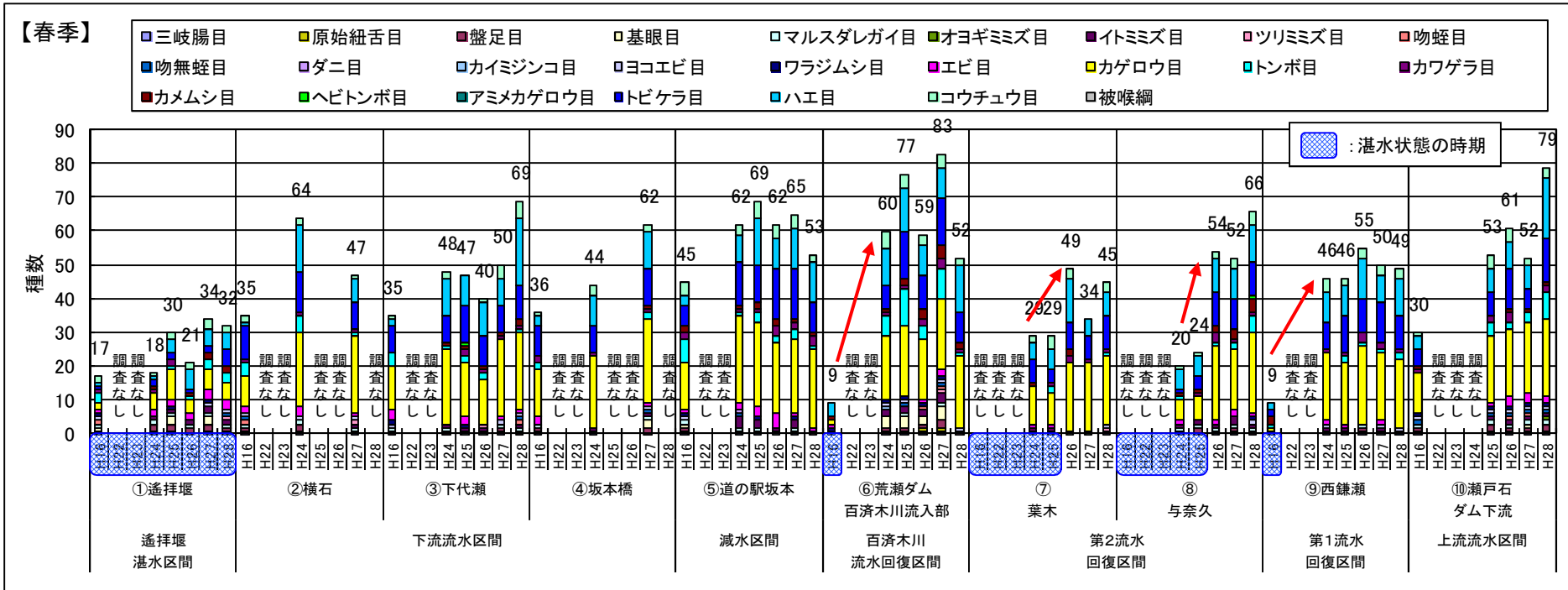


2) 底生動物（調査日 春季：平成 28 年 5 月 25～27 日、冬季：平成 29 年 1 月 10～11 日）

評価項目	視点	平成 28 年度の調査結果概要	評価概要
経年的な変化状況	全確認種数 流水性種の種数	- ダム下流地点(①～④)では、H16 レベル以上の種数を維持している。 - ダム上流の流水回復区間では、流水環境への変化と同時に全種数及び流水性種が増加しており、平成 28 年度も概ねその状態を維持している。	- ダム下流において、ダム撤去による影響（ダムに溜まったシルト等の細粒土砂の堆積による影響）はなかったと考えられる。 - ダム上流では、湛水環境から流水環境へと変化したことで、瀬、淵、ワンド、水際の浅瀬等の多様なハビタットが形成され、それに対応して多様な種が生息可能となり全種数や流水性種が増加した。その後も、状態がほぼ維持されている。

底生動物の全確認種数



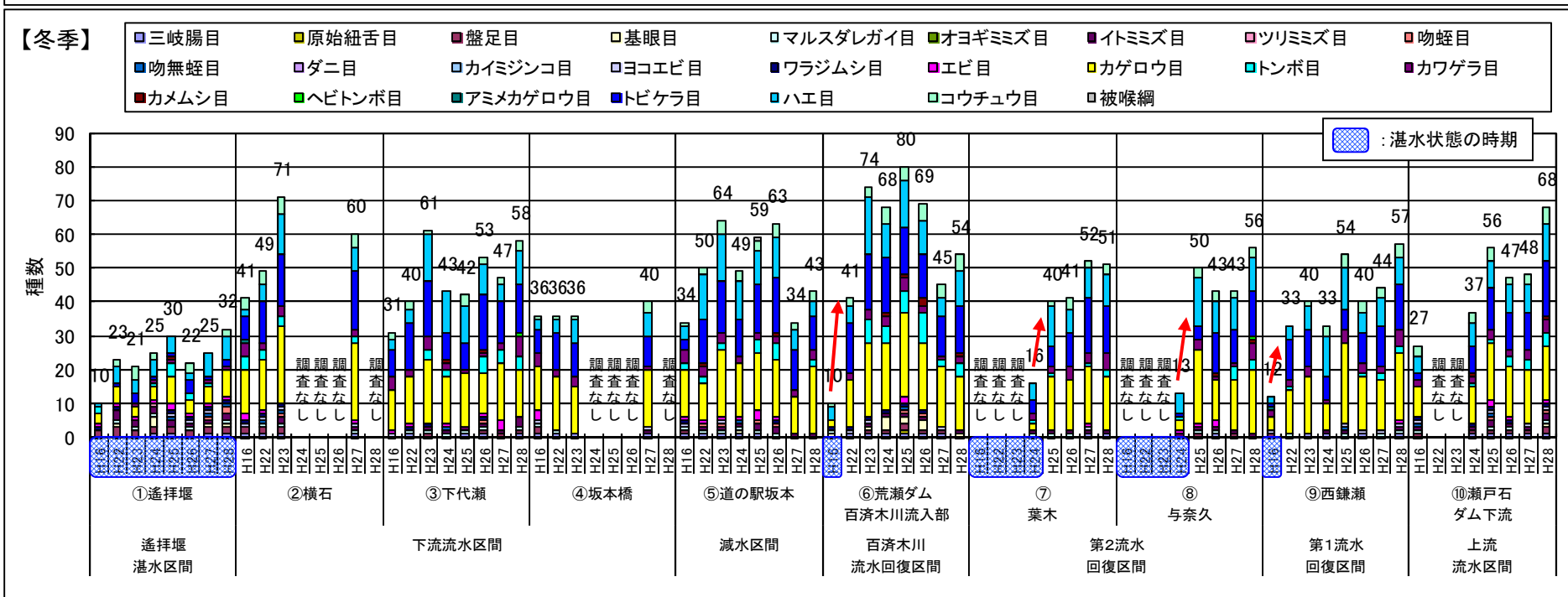
ヒゲナガカワトビケラ

- ・日本各地に生息する大型のトビケラ類で、普通種。
- ・瀬の石と石の間に網を張り、小石をつづった巣をつくる。
- ・流下する藻類等の有機物を網で集めて食べる。
- ・羽化期は3～6月及び8～10月。



シロタニガワカゲロウ

- ・本州、四国、九州に多数生息する普通種。
- ・平瀬緩流部～流れの停滞する水際に生息。
- ・石表面の付着藻類を食べる。
- ・羽化期は5～11月。



カワニナ

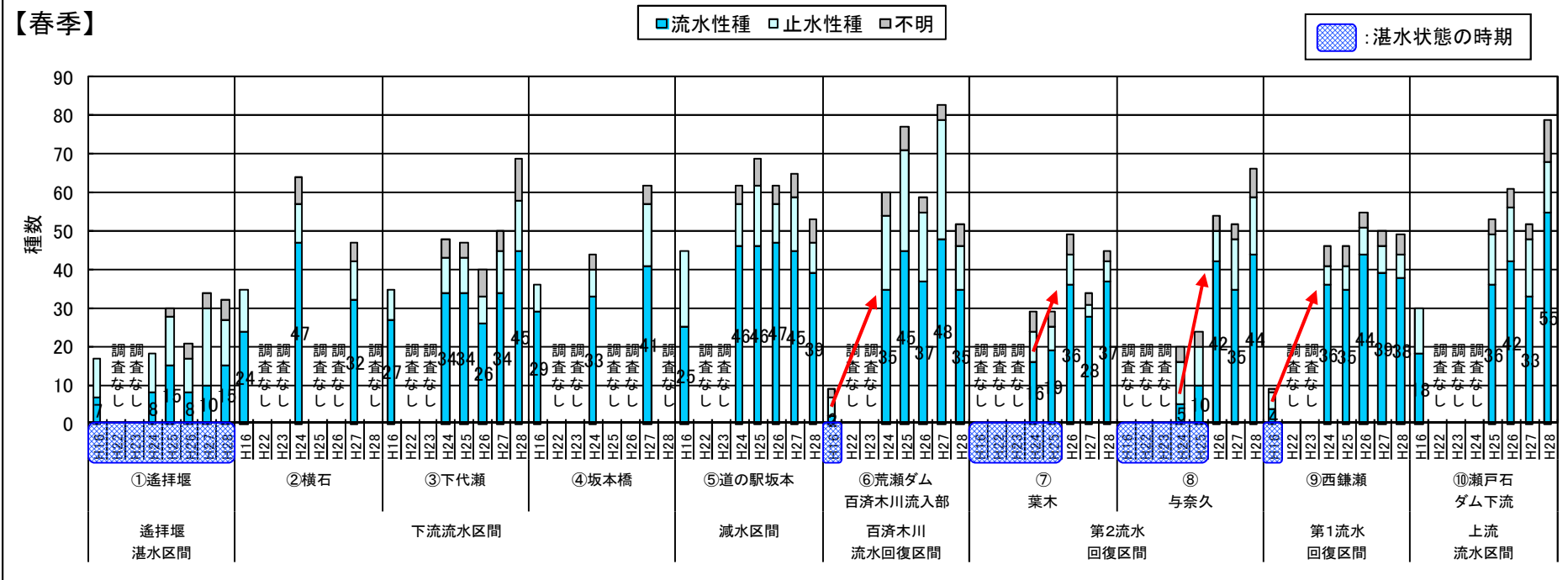
- ・日本各地に生息する普通種。
- ・流れの停滞する池やワンドに生息。
- ・石や落ち葉表面の付着藻類を食べる。



ハグロトンボ

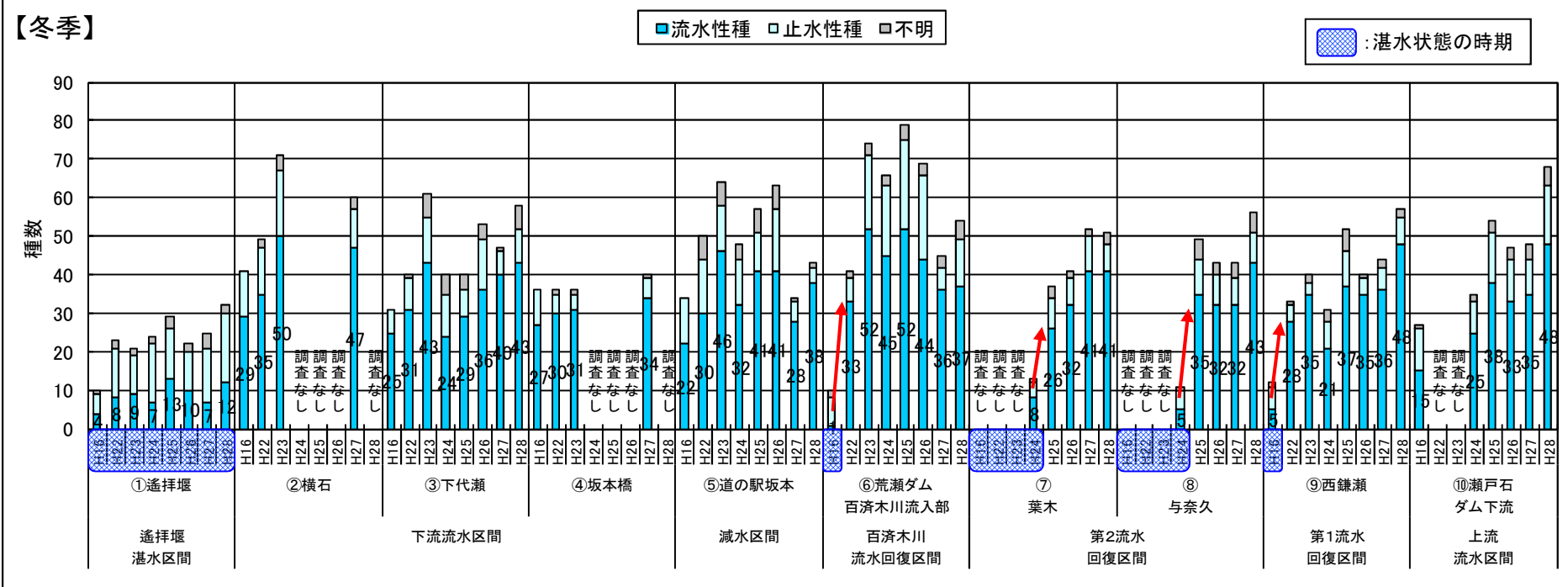
- ・日本各地に生息する普通種。
- ・水草やヨシが多く、流れの緩やかな水際等に生息。
- ・他の水生昆虫類を捕食する。

流水性種の種数



【用語の解説】

・流水性種と止水性種：流水性種は、河川の瀬を主な生息場とする種。止水性種は、湖沼や水田を主な生息場とする種。荒瀬ダムの撤去によってダム上流域の水位が低下し流速が増すと、流水性種が増加し、止水性種が減少すると考えられる。代表例として、流水性種ではカゲロウ目、カワゲラ目、トビケラ目の大部分の種が、止水性種ではマキガイ綱、ミミズ綱等に含まれる種が挙げられる。



流水性の代表種



・日本中に多数生息するコカゲロウの代表種。
・石表面に張り付き、付着藻類を食べる。
・羽化期は3～12月であるが、ピークは冬季。



・日本中に多数生息するヒラタカゲロウの代表種。
・石表面に張り付き、付着藻類を食べる。
・羽化期は5～11月。